

大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」に大京、近鉄不動産とそれぞれ共同設計した新住戸完成
～NEXT21 設計パートナー・コンペティション「2020年の住まい」最優秀作品受賞住戸～2014年8月19日
大阪ガス株式会社
株式会社大京
近鉄不動産株式会社

大阪ガス株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：尾崎 裕、以下「大阪ガス」）は、大阪ガスが所有する実験集合住宅「NEXT21」の第4フェーズ居住実験対象2住戸において、株式会社大京（本社：東京都渋谷区、社長：山口 陽、以下「大京」）と「404」住戸、近鉄不動産株式会社（本社：大阪市天王寺区、取締役社長：澤田 悦郎、以下「近鉄不動産」）と「501」住戸の改修について共同設計を進め、2014年7月31日に竣工し、今回の発表に至りました。

大阪ガスは、居住実験対象の「404」住戸と「501」住戸の改修を行うにあたり、分譲マンションデベロッパーを対象に、よりリアルで時代のニーズを汲み取った「2020年の住まい」の住戸提案を募集する「NEXT21 設計パートナー・コンペティション」を2013年春に開催しました。

応募数は、9グループ（18提案）あり、その中から審査会を経て大京、近鉄不動産の提案が最優秀賞に選定されました。

大京、近鉄不動産は、これまで一般的な家族を対象にファミリー・DINKSタイプといった住宅を基本モデルとして住宅を供給してきましたが、次の時代に求められる住空間を考える良い機会と捉え、コンペティションに応募しました。

大京が提案した「404」住戸のコンセプトは、1つの住まいに1つの世帯ではなく、少人数多世帯（4世代）が集まり、互いにサポートしながらも自立し、いきいきと永く暮らせる「4G HOUSE」です。

近鉄不動産が提案した「501」住戸のコンセプトは、時の流れと共に変化する家族の在り方に沿って、住み続けられる住まい「プラスワンの家」です。最優秀賞当選2住戸の上記コンセプトを踏まえ、大阪ガスと大京、近鉄不動産はそれぞれ、NEXT21 コンペ住戸基本設計研究会で共同設計を進め、この7月31日に竣工致しました。

今後、コンペ住戸発表会^{*1}や公開見学会^{*2}を開催して、広く発信するとともに、来年以降開始する予定の2住戸の居住実験を通じ、各社、当選住戸の商品化の検討や今後の商品開発に繋げるべく、お客さまのこれからの暮らし方の研究等に積極的に取り組んでまいります。

(※1)コンペ住戸発表会：10月2日（木） 15時～17時 大阪ガス OME ビルにて。

(※2)公開見学会：10月3日（金）～11月30日（日）（予定）の平日、約2時間、NEXT21にて。

いずれも事前予約申込み方式です。予約申込み方法等は大阪ガスホームページでご案内いたします。

以上

【本件に関するお問合せ先】

<本件事業に関して> 大阪ガス株式会社 広報部	TEL 06-6205-4515
<404住戸に関して>株式会社大京 広報室	TEL 03-3475-3802
<501住戸に関して>近鉄不動産株式会社 財務企画部	TEL 06-6776-3057

(参考資料)

＜大阪ガス実験集合住宅 NEXT21＞

近未来の都市型集合住宅のあり方について、大阪ガスが、環境・エネルギー・暮らしの面から実証・提案することを目的として、社員とその家族が実際に居住しながら、1993年10月の竣工後、計3回15年間の実証実験に取り組み、2013年6月から第4フェーズの居住実験を開始。



第4フェーズ居住実験では、2020年頃までの都市型集合住宅を前提として、「環境にやさしい心豊かな暮らし」を追求する。そのため、「人と自然の関係性の再構築」「人と人とのつながりの創出」「省エネ・スマートな暮らしの実現」の具現化に向けた実証に取り組んでいる。

所在地：大阪市天王寺区清水谷町6-16

規模：地上6階、地下1階

建築面積：896㎡ 延床面積：4,577㎡ 住戸数：18戸

＜NEXT21 設計パートナー・コンペティション＞

応募資格：関西で分譲マンション（ファミリータイプ）の供給実績がある企業

エントリー期間：2013年3月12日～5月20日

作品提出締切：2013年6月28日

最優秀賞：各住戸1点（基本設計料を賞金として支払う）

優秀賞：各住戸1点 30万円

審査委員：馬場正尊（建築家/Open A 代表，東北芸術工科大学准教授）

島原万丈（ネクスト/HOME'S 総研 所長）

加茂紀和子（建築家/みかんぐみ，ICS カレッジオブアーツ特任教授）

木全吉彦（大阪ガス エネルギー・文化研究所 所長）

提出物：「404」住戸、「501」住戸、両住戸設計の提案を1案ずつ（計2案/A1ボード）

＜「404」住戸＞ 住戸名：4G HOUSE

-4つの世代（Generation）、4人の女性（Girls）が暮らす住まい-

提案：株式会社大京・株式会社岩村アトリエ（設計パートナー・コンペティション最優秀賞）

基本設計：NEXT21 コンペ住戸基本設計研究会^{*3}

実施設計：株式会社岩村アトリエ

施工：東急建設株式会社

＜「501」住戸＞ 住戸名：プラスワンの家

-1つの空間をシェアする1.5世帯の新しいマンション暮らし-

提案：近鉄不動産株式会社・株式会社アトリエオズミィ（設計パートナー・コンペティション最優秀賞）

基本設計：NEXT21 コンペ住戸基本設計研究会^{*3}

実施設計：KBI 計画・設計事務所

施工：東急建設株式会社

＜NEXT21 コンペ住戸基本設計研究会メンバー＞

株式会社大京（「404」住戸）、近鉄不動産株式会社（「501」住戸）

大阪ガス株式会社（「404」住戸・「501」住戸共通）

株式会社岩村アトリエ（「404」住戸）、KBI 計画・設計事務所（「501」住戸）

設計アドバイザー（「404」住戸・「501」住戸共通）

高田光雄氏（京都大学大学院教授）

近角真一氏（集工舎建築都市デザイン研究所所長）

馬場正尊氏（Open A 代表，東北芸術工科大学准教授）

404住戸 4G HOUSE

－4つの世代(Generation)、4人の女性(Girls)が暮らす住まい－



NEXT21 パートナー・コンペティション最優秀賞(404住戸) 作品を実現

提案者：株式会社大京・株式会社岩村アトリエ

『新しい世帯構造に対応した 住まいのカタチ』を提案

少子高齢化の進行や離婚率の増加などに伴って、単身世帯や2人世帯といった小規模な世帯が増加する一方で、経済的な面でも、日常生活の面でも、それらの世帯が単独では暮らしにくくなっており、この傾向は今後もより顕著になると考えられます。

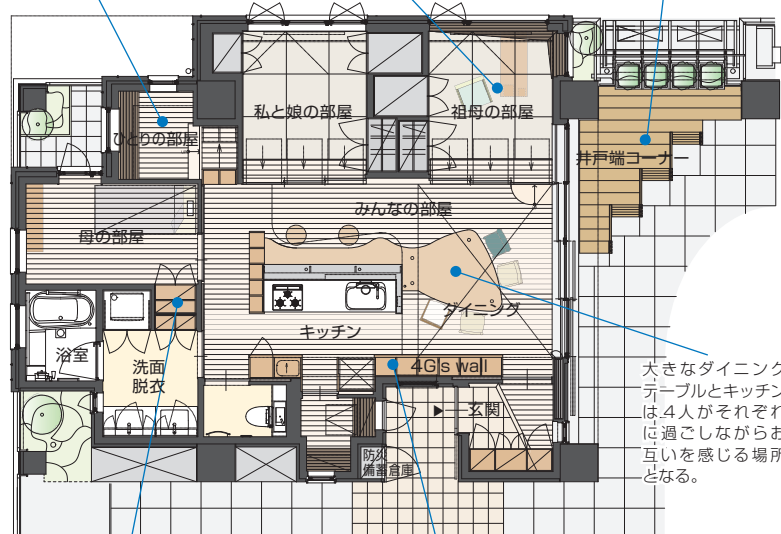
そこで「1つの住まいに1つの世帯」ではなく、少人数の複数世帯が集まり、お互いにサポートしながらも、各々が自立いきいきと永く暮らせる新しい住まいのカタチをつくらうと考えました。

「祖母、母、私、娘」の4つの世代、4人の女性が、それぞれ自立した個人として、同時にお互いを支え合い、世代間を継ぐ住まい。それが「4G HOUSE」です。

棚を押すと現れる隠し部屋。
ひとりの時間を創り出す。

井戸端コーナーと連続し、緑を育て楽しむ。
無双窓は閉じていても風を通す。

隣からの視線に配慮した空間。
またちょっとした
コミュニケーション空間となる。

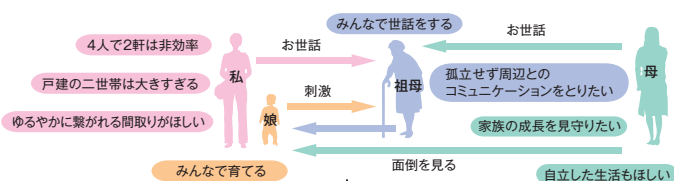


介護が必要なときに収納を
なくせば水回りと繋がる。

4人の趣味や好みのものが並び棚。
見ているだけで各々の関心事が分かる。

1:150

家族イメージ



「祖母、母、私、娘」の4つの世代、4人の女性が、自立した個人として、
お互いを支え合い、世代間を継ぐ住まい。



大きなダイニングテーブルとキッチン
は、4人がめいめいに過ごしながら、
お互いを感じる場所。建具を開けば、
私と娘の部屋と祖母の部屋、さらには
井戸端コーナーとも繋がり、まるで
大きなリビングのような空間となる。



ダイニングテーブルの先には娘が宿
題をしたり、仕事でパソコンを使っ
たりできるスペースを設置。一日中
みんなを感じられる工夫のひとつ。
4G's wallは4人の趣味のものが並び、
各自の関心事が見えてくる。

コンペ 課題

「2020年の家族の家」

2020年頃、家族はどのような姿をしているかを
想定していただきました。

家族は今より個々の独立性を求めるのか、逆につな
がりを求めるようになるのか。独り暮らしが増えて
住居の個人化は進むのか、それとも誰かと一緒に
住む方法を模索するのか。高齢化や少子化は、家
族そして家にどのような影響を及ぼすのか。

2020年の家族の一つのあり姿を想定し、彼ら、
彼女らが住まう理想的な家を「404住戸」では求
めました。

(NEXT21 パートナー・コンペティション募集要項より)

501住戸 プラスワンの家

—1つの空間をシェアする1.5世帯の新しいマンション暮らし—



NEXT21 パートナー・コンペティション最優秀賞(501住戸) 作品を実現

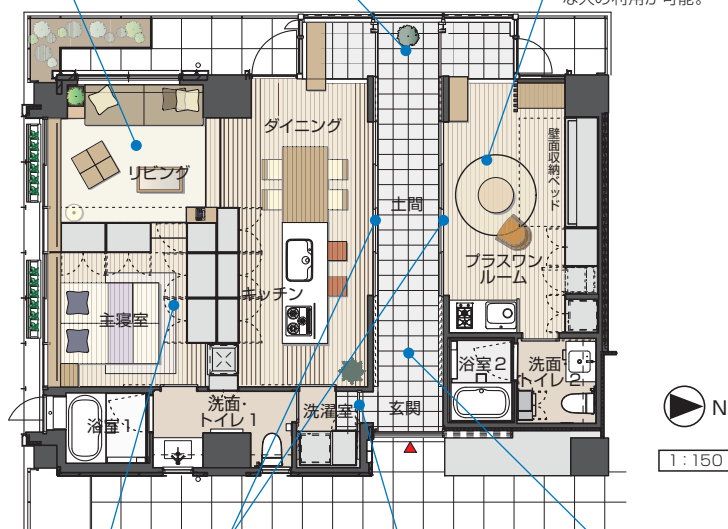
提案者：近鉄不動産株式会社・株式会社アトリエオズミィ

『住み続けられる、変わらない家』を提案

ワーキングシングルを増加を背景に、60代を中心とした世帯構成は「1.5世帯」(夫婦+単身の子)が増加しています。戸建住宅においては、幅広い世帯構成に合わせた住まいが作られ始めていますが、集合住宅の基本モデルは限定された世帯「1世帯」に向けて作られているのが現状です。

そこで、501住戸では50～60代の夫婦を中心軸に、1.5世帯に向けた新しい集合住宅のカタチを提案。共に暮らす「誰か」(=プラスワン)が変化しても、お互いの生活を尊重し、住み続けられます。時の流れと共に変化する『家族の在り方』。そんな流れに沿って住み続けられる、変わらない家をコンセプトとしました。

床面を下げることで、より緑に近づき、落ち着ける空間。
奥に各部屋の入口を設けることで、お互い土間を行き来する気配を感じる。シンボルツリーを育て、つながりを創出。
住戸内にもう一つの住戸として存在。娘、祖母、他人など様々な人の利用が可能。



収納を壁として区切ったプライベート空間。
両方の部屋の格子戸を開け、大きな空間利用も可。
勝手口を設けることで、回遊性、利便性が向上。
立体街路から繋がる土間空間。メイン住戸とプラスワンルームをつなぐ。

屋外の立体街路と連続した土間空間が、住戸内に引き込まれ、メイン住戸とプラスワンルームを緩やかにつなぐ。お互いの気配を感じながら距離感を調節する家。両親と娘、夫婦と老親、夫婦と姪、住居と職場・・・様々な家族を受け入れます。



夫婦55歳+娘25歳(プラスワン)

夫婦60歳+祖母80歳(プラスワン)

夫婦70歳+賃貸(プラスワン)



- 立体街路からつながる土間空間。
- 奥に各部屋の入口があり、通るたびお互いの気配を感じることができる。
- 気候の良い時期には格子戸を開けるなど、環境調整空間として活用。
- 部屋の入口前のシンボルツリーを育てることを通じた交流。

コンペ課題

「誰かと何かをシェアする家」

今まで多くの集合住宅の基本モデルは、核家族を対象にしてつくられてきました。しかし今後も、それは続くのでしょうか。住まい方はさらに多様化しようとしています。今後、私たちは誰と一緒に、どのように住むのか。誰かと住む、それは家族であるかも、家族でないかもしれません。例えば、誰かと何か(空間、時間、行為...)をシェアしたり...。そういった提案によって生まれる次の時代の住まいの形や可能性を「501住戸」では求めました。

(NEXT21 パートナー・コンペティション募集要項より)



- 南面の窓を大きくとり光と緑を取り込む。
- レベルを下げた床が落ち着いた雰囲気を生み出すと共に緑と近づく。



- 格子戸を開けると大きな一体空間となる。
- 格子戸と土間の使い方の工夫で様々な利用シーンを期待。